

## 第2回 村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議 議事要旨

日 時 ■ 2019年（令和元年）12月17日（火）午前10時から午前12時

場 所 ■ 藤沢市役所 本庁舎8階 8-1会議室

出席者 ■（敬称略）

会 長：柳沢 厚

副会長：中島 直人

委 員：（五十音順）相澤光春、饗庭功、加藤直人、佐保田俊英、竹村裕幸、  
仲手川仁志、林岡治、林喜太郎、松窪 昌幸（代理）、三上雅之、八文字弘行、  
渡場清治、渡辺敬介

オブザーバー：神奈川県 鎌倉市

事務局：都市整備課

傍聴人数■ 7人

議事次第■ 1 開会

2 議事

① 空間のあり方について

3 その他

4 閉会

配布資料■ 【資料1】村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議の目的及び検討の流れ

【資料2】村岡新駅周辺地区における空間のあり方について

【資料3】民間事業者ヒアリングについて

【参考資料】

議事概要■

① 空間のあり方について

○事務局より資料2と参考資料を説明。

ご意見等（項目に分けて整理しています）

[都市像について]

創造的なまちづくり

○玄関口にふさわしいまちづくり。最先端技術の拠点。

- 観光や交流面の視点が抜けているが、世界に向けた、情報発信拠点になりうる。スポーツ、ホスピタリティー、ヘルスイノベーションなど、多様な世代の交流・情報発信が図れるコア施設の設置が必要ではないか。
- 今までの研究開発拠点は白い箱の中に閉じられたというイメージがあるが、ここでは一見遠いものが身近に感じられるように研究開発拠点をとらえていく、「開かれた」がキーワードだと考える。そうすれば、おのずと観光ともつながるのではないか。
- 防災上、生き残れるということが最優先のベースとし、その上に、緑と歴史という地区の持つ資産をどう生かすか。最後に、研究開発拠点を形成の仕方で地区を特徴づけていくといいのではないか。
- 研究開発にリアリティをもてるようにすることが必要のようだ。まちとつながるといのが今日のキーワードではないか。

### 緑や文化豊かなまちづくり

- 「自然を大事にする」という点はすばらしい。
- 研究開発者にとってどういう場所を選ぶか、という時にグローバルな環境であるというだけでなく、ローカリティというのが重要。
- 湘南 i-Park にいる国際的な研究者が地元のお祭りに参加したこともある。そうなることで日本の文化・地域の文化が愛され醸成されていく。国際的であることはそのような効果も期待できる。
- グローバルとローカリティを考えると、その地域がもっている地域性をどう表現するかが重要である。本地区では既存の主たる資源が無いので、歴史的な分析を添えてもらいたい。

### 新しい交通結節点づくり

- 湘南 i-Park では横浜国大とヘルスケア Maas の提携をしたので、この地区における移動、交通のあり方についても、この知見・研究をまちづくりに反映できるのではないか。
- 国道1号から片瀬川までのトンネルのバイパスが本地区のところで止まっていたり、混雑が想定される道路もあり、周辺との交通の繋がりも考慮してまちづくりを考えてほしい。

### 安全・安心なまちづくり

- 柏尾川は河川氾濫の危険を伴っており、安心安全についてはしっかりと取り組む必要がある。
- 柏尾川は早く水かさが増えることも踏まえる必要がある。

- 安全な街でなければ安心して都市活動が出来ないので、具体的な街としての対応が気になる。

### 地元や市民の視点

- 今住んでいる方々がどういう利便性を得られるのかを示してもらいたい。
- もう少し地域がそれを受け入れながら融合した都市像となる様な表現になるとより良いのではないか。
- 「他の地域に住んでいる方が行きたくなる街」というイメージが湧いてこなかった。
- 住民がこの駅を利用したいと思えるようにすべき。お年寄りから子供まで集うことが出来る街、保育園機能みたいな利便性を高める施設があると良い。
- 湘南 i-Park では、開所 1 年半で 60 の企業が集まっている。創薬に関わらず健康産業に関する企業、情報発信としても様々なプレイヤーがおり、いずれ湘南 i-Park からあふれ出ることを期待している。そのようなベンチャー企業が村岡や深沢などで新しい事業展開をすると、地域雇用などにもつながる。

### 深沢地区との関係

- 村岡地区と深沢地区がどう絡み合っていくのかが見えない。
- 県では「ヘルスケア」、鎌倉市では「ウェルネス」というテーマがある中で、三者一体の議論をした方が良いのではないか。
- 「健康社会」は肉体的な健康と創造的な健康とがあるが、「ウェルネス」がテーマの深沢地区と、クリエイティブを掲げようとしている村岡地区が連携して進めると考えれば、まちづくりのターゲットも見えるのではないか。
- シンボル道路のあり方、深沢地区との連続性をどう作るかが重要な要素であり、具体的なイメージが欲しい。

### 検討する上での視点

- 超高齢社会と言うが、まだまだ藤沢には若い力があるという話で進めてもらいたい。
- チェーン店で埋まるような街にはしたくない。来訪者を連れて行きたくなるような、地元の方がやっている飲食店があることも重要な要素の一つ。

### [空間像の考え方について]

- 南口と北口という概念が古く、東海道線で分断される南北を一体化することが重要であり、もう少し空間像を描けると良い。防災的な考え方からも、南側の方からさっさと北側に行けるような関係なども重要。
- 自由通路を、道路ではなく公園というイメージで作れないか。

→事務局 魅力的なイメージではあるが、市としては自由通路を作るだけで精一杯なので、どうスキームを作るかが課題となる。

- アイデアとしては非常に良い。新宿バスタでは人工地盤を作って線路上空を有効活用している。線路の上を活用するというのは非常に良いが、地べたと違い、構造的な面などを考えるとお金がかかり、また、高低差の処理という面も難しいかもしれない。
- 大船駅のように駅につながって店舗街のようなものも考えてほしい。線路の上も含めた街づくりが必要である。
- 線路上などについては悩ましいところもあるが、そうしたことも含めた将来像を描いてもらいたい。我々も検討してみる。

#### [その他]

- 深沢地区の状況についての説明を要望しており、次回は示してほしい。
- アクティビティから考えることは重要であるが、次回は具体的な施設のイメージも出してもらいたい。
- 「公民館（予定）」と資料にあるが、もう「予定」では無く進んでいる。
- いつ駅が出来るのか。
- 新駅設置のスケジュールについては、今年度・来年度で実施する概略設計で具体的に明らかになるが、現時点では概ね 10 年後と考えている。
- 今後まちづくりを進めるに当たっては住民理解が必要である。駅ができるという話になった経緯を説明し、周知してもらいたい。

以 上